

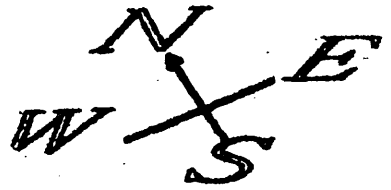
2010年7月1日

第194号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称 藤沢エコネット)



主 事
な 記
事

- ・生物多様性と私たちの健康
- ・藤沢の3大谷戸
- ・「藤沢未来予想図」の絵に想う
- ・空気の汚れを考える西湘湘南三浦集会

事務局〒252-0816 藤沢市遠藤849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922(夜間のみ)

<http://comcom.jca.apc.org/econet/>

真にマニフェストを実現する政治とは

7月11日の投票日に向けて参議院議員選挙が行われている。各党とも選挙マニフェストを発表し国民の支持を得ようとしている。しかし、真にマニフェストを実現する政治を目指しているのが誰なのか、国民は各党の政策を見抜く眼力を養う必要がある。

鳩山首相は、先の衆議院選挙で沖縄の普天間基地の県外移転を公約したが、公約を果たせず退陣した。米海兵隊の沖縄駐留が抑止力になるという米国の力の論理に抗しきれなかった為である。しかし、辺野古の海を破壊し新しい基地を作ることに対し、沖縄の人々の支持が得られた訳ではない。ただ、首相の首を代償に政策転換を行っただけである。マニフェスト破りがこのようにいとも簡単に行われて良いものか。

また、今回の選挙で、菅首相は消費税の引き上げ問題を持ち出してきた。先の選挙で消費税引き上げは行わないと公約してきた問題である。財政再建、年金財源確保、経済の発展等々が引き上げの理由として上げられている。しかし、消費税値上げは、その分だけ国民の財布からお金を取り上げると言うことであり、新たな消費不況が生まれることは必至である。

環境に関する政策もマニフェストでは、地球温暖化対策税の導入をかけた、エネルギーの安定供給体制確立のため原子力利用に着実に取り組むとしてる。

また大企業の減税とセットの消費税増税が、プラスマイナスゼロで年金財源確保となるものではない。

年金制度危機は、大企業の低賃金政策維持の為、若者を中心に広がっている不正規雇用の拡大にある。今の若者が、学校を卒業しても働く場所が無く、派遣やアルバイトなどの不正規雇用で年金も払えず、将来の展望もなく、結婚も出来ないような社会を根本的に変えてゆくマニフェストの実現が、今度の選挙に求められている真の課題ではないか。マニフェストの毛針で釣り上げられ、あれやこれやの口実でその実現が反古にされるような政治を何時までも許してはならない。

(小林麻須男)

生物多様性と私たちの健康

藤沢エコネット主催の学習会がふじさわ環境フェア協賛行事として6月13日に開催されました。講師の本間慎さんは 東京農工大学名誉教授、フェリス女学院大学前学長であり、新潟県佐渡に設置されている「伝統文化と環境福祉の専門学校」学校長をしています。

佐渡に関しては、誰もが「朱鷺^{とくま}センター」のことを思い浮かべることでしょう。トキがテンによる被害をうけトキセンターでは大きなショックを受けました。天敵の「テン」に対してきちんと対策をとらなかったのが原因でした。また5つのつがいの巢からは卵がふ化しませんでした。本間先生に相談があり、先生は始めから「ふ化しても育雛はできないかも知れない」との予測をしていたそうです。トキの群れによる生態系の調査研究がなされていません。トキの「生態地位」の問題やトキは群れの中で社会性を育むため、どこまでが本能か、の研究が足りないようです。トキと人間の共生は難しいことです。

本題の生物多様性のお話は、映像による説明で紹介されました。

「生物の多様性」とは動物・植物・微生物のあらゆる種とこれを構成する生態系と生態プロセスを包含する概念である。したがって、通常は遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性を3段階レベルで考察する。

遺伝子の多様性とは、地球上に生息する動物、植物、微生物の個体の遺伝子に含まれる遺伝情報全体をいう。種の多様性とは、地球上に生息、生育する生物の多様性を指すものであり、その数は500万種から5000万種に及ぶであろうと推測されている。

・生物多様性の危機の構造

第1の危機→人間活動や開発による危機

人間活動ないし開発が直接的にもたらす種の減少、絶滅、あるいは生態系の破壊、分断、劣化を通じた生息・生育域の縮小、消失

第2の危機→人間活動の縮小による危機

生活・生産様式の変化、人口減少など社会経済の変化に伴い、自然に対する人為の働きかけが縮小撤退することによる里地里山等における環境の質の変化、種の減少ないし生息・生育状況の変化

第3の危機→人間により持ち込まれたものによる危機 外来種、化学物質など人為的に持ち込まれたものによる生態系の攪乱が20世紀に入り急速に進み、現在、生態系が多くの化学物質に長期暴露されるという状況が生じている。「沈黙の春」で指摘された DDT などによる鳥類への影響、環境ホルモンによる生態系のみならず人間の健康にも大きな影響を与える可能性がある。

☆環境省は2010年秋から、胎内の化学物質の影響を調査することにしました。

妊婦10万人を対象とし、血液や出産時の臍帯血、母乳などを採取、ビスフェノールAなどの内分泌攪乱物質、ダイオキシン類などの濃度を測定する。その後もアンケートや面談により調査を実施、子どもが12歳まで継続することとなりました。健康異変の増加を受け因果関係を検証するためとしています。

映像では環境ホルモンにより野生生物に大きな影響を与えていることを、コルボーン博士「失われし未来」で訴え世界的に大きな問題となったいくつかの例を紹介しました。

1950年 イギリスでカワウソが姿を消した。殺虫剤が原因か？

1960年 米五大湖に住む魚を与えた（PCB汚染）ミンクが子どもを産まなくなった。

1970年 オンタリオ湖のセグロカモメの雛の80%が死んだ、死んだ雛の多くは奇形であり、ダイオキシンか？

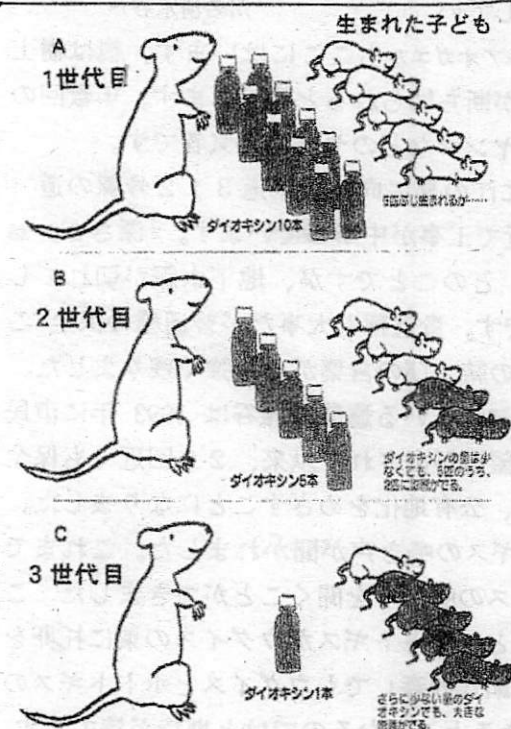
1980年代 フロリダ、アポプカ湖のワニの孵化率18%、そのうち半分は10日程で死んだ。60%のオスのペニスが萎縮していた。（原因は農薬の流出事故？）

1992年 デンマーク・コペンハーゲン大学で1940~1980年代にかけ、精巣ガンの発生率が3倍増、成人男子の平均精子数が1938~1990年代にかけ半減した。

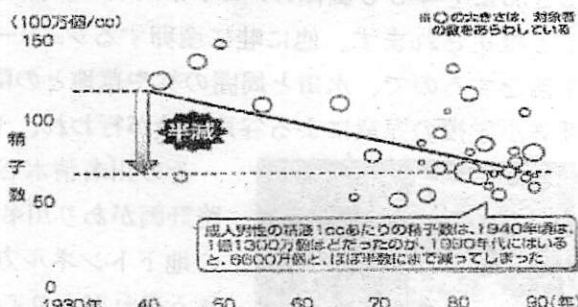
従来、有害化学物質の生物への影響といえば、発ガンや催奇性が問題視された。コルボーン博士らは内分泌に対する影響を重視した。つまり、有害化学物質が、ごく低濃度でホルモンと似た働きを行い、内分泌の作用を攪乱し、生殖能力や胎児に影響を与え、奇形や先天異常、脱男性化などが動物実験で示されています。

★文部科学省の調査によれば、過去30年で肥満傾向にある子どもの割合は1.5倍に増え、ダウン症（染色体異常で起こる先天性精神発達遅滞疾患）や尿道下裂など先天異常は25年間に2倍に増加しているといえます。

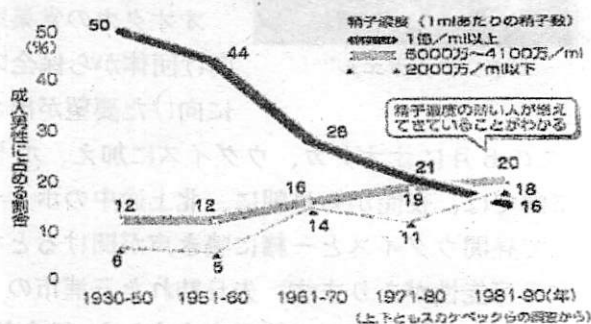
ダイオキシン暴露ラットの世代への影響



男性の平均精子数の変化



男性の精子濃度別割合の変化



藤沢三大谷戸の現状

市街化が進む藤沢市内で最も生物多様性の高い自然が残されているのは谷戸です。現在、谷戸らしい谷戸が残っているのは南部の川名清水谷戸、中部の石川丸山谷戸、西北部の遠藤笹窪谷のわずか3つに過ぎません。藤沢に残された貴重な谷戸で、藤沢の三大谷戸と呼ばれ、藤沢市として保全することを決定しました。

「川名清水谷戸においては都市計画道路との共生を目指し特別緑地保全地区を、石川丸山谷戸では権利者と調整のうえ都市緑地の指定を目指す。遠藤笹窪谷戸は公有地化を進める。本年度内に緑の基本計画を改定の方、二つの谷戸への制度導入体制を整える」という藤沢市市長経営戦略宣言2010年6月1日に発表されました（「経営」には違和感を覚えますが・・・）。

川名清水谷戸で長年活動している川名里山レンジャー隊の八城敬友事務局長と藤沢市環境審議会委員の大谷房江さんからその現状について報告がありました。

川名里山レンジャー隊は放棄されていた水田を復元し、日大生物資源科学部の学生達と保全活動を行っています。谷戸の谷から水が湧き出し小さな流れとなって、水路ができその流れの周囲は湿地を形成しています。ここは穴を掘ったら水が湧いてきます。水生植物や昆虫、小動物がたくさん棲んでいます。

市内でニホンアカガエルの産卵環境が残っているのはここを含めて2カ所しかなく、健在なのはここだけになりました。でも、かつては、卵塊は1400個も見つかったが、今年の調査では147個に減りました。

1個の卵塊はメス1：オス2の割合で産卵されると考えられるとおよそ450個体のニホンアカガエルが生息している

と推定されます。他に畦に産卵するシュレーゲルアオガエルもここにはいます。親は樹上生活をするので、水田と周囲の林や草地との関係が断ち切られると絶滅します。年数回の新林小学校の児童による谷戸探検が行われ、ヤブヤンマなどのヤゴは人気者です。



川名清水谷戸



ニホンアカガエル

その川名清水谷戸に江の島に向かう県道312号線の道路計画があり川名付近で工事が中断しています。「深さ20mの地下トンネル方式」とのことですが、地下水脈が切れてしまう恐れがあり心配です。貴重種も大事だが普通種の保全こそ忘れてはならないとの結びの言葉が心に強く残りました。

オオタカの営巣地で知れている遠藤笹窪谷は1993年に市民向け団体から保全の要望書が出されて以来、20回近くも保全に向けた要望が出され、公有地化をめざすことになりました。

この6月にオオタカ、ウグイスに加え、ホトトギスの鳴き声が聞かれました。これまで市内では、夜間から早朝に、北上途中のホトトギスの鳴き声を聞くことができました。ここで昼間ウグイスと一緒に鳴き声が聞けるとなると、ホトトギスがウグイスの巣に托卵する可能性があります。先日訪れた三浦市の「小網代の森」でもウグイスとホトトギスの鳴き声を同時に聞くことが出来ました。保全ができるとこうなるのではと期待が持てます。

6月上旬は「ゲンジボタル」が見られることで石川丸山谷戸は有名になってきましたが、

かつて、産廃の埋め立て地候補になったこともありました。最近、復元田も作られるようになりました。また、子ども達の遊び場としても使われています。

2005 年、川名清水谷戸でのヤマトゼンブリの発見は国内 3 例目という快挙でしたが、問題点も見つかってきました。特に、特定外来生物が多く見つかっています。植物では、オオキンケイギク、アソラ・クリスタータなど、動物では、ハクビシン、アライグマなど生態系の攪乱が心配されます。また、3つの谷戸に共通することは、

水量の減少 → 植生の変化 → 乾燥地化の進行が心配されます。

保全には流域全体の自然環境の把握が必要です。1998(H10)年～2001(H13)年にかけて行われた藤沢市自然環境実態調査では、5年ごとの実態調査の必要性が述べられています。未だ行われていません。目下進められている「緑の基本計画」改定は、新しい「自然環境実態調査」を元に進めてほしいものです。調査なくして発言権なし!!

現在、石川丸山谷戸とその集水域については、環境省の里モニ* (註) サイト 71 に指定され、「水環境」「ホタル」「中・大型ほ乳類」「人為的インパクト」の4項目について、

日大生物資源科学部地域環境保全学研究室を中心に調査を開始して3年目に入っています。

* (註) モニタリングサイト 1000 は、動植物の生育生息状況などを 100 年にわたって同じ方法で調べ続けるサイト (調査地点) を全国に 1000 ヶ所程度設置し、日本の自然環境の変化をとらえようという環境省のプロジェクト。このうち里地里山タイプの調査を里地・里山モニタリング (里モニ) といいます。市民の手によるモニタリング調査として 2005 年から、取り組んでいます。 (宮地俊作)

「アセス完了は武田薬品の安全を保障するものではない」

武田薬品の巨大なバイオ研究所建設に当って、神奈川県環境アセスメントは 1 年半をかけ 2008 年 11 月審査を終えた。武田薬品側は、環境アセスメントの審査が終了した時点から、「アセスが審査されたので、研究所からの大量の排気も大量の排水も安全である」というキャンペーンを行った。しかし県の環境アセス担当部局が面会した住民に「アセス審査は研究所の排気や排水の安全を保障するものではない」と明言したように周辺住民の生命の安全や境川下流域の環境に配慮した審査は何ら行われていない。

時間を十分かけたアセスがなぜそうなるのか? 神奈川県が行う現行の環境アセスは事業の実施を前提にしており、審査の方法も、事業者自らが調査、予測、評価を行うことになっているためである。このような環境アセスメントをめぐるのは、評価項目決定の不備と武田薬品の強硬な姿勢に対して、2008 年 11 月 5 日付毎日新聞朝刊はアセスのずさんさを報じた。

とくに当バイオ研究所は、全体が動物実験を中心に構成されているため研究所の排気にも排水にも、危険な病原体や有害化学物質による汚染の危険度が高い。しかし排気についてはその 98%、排水については下水道に放出するとして全量とその他の「蒸発分」が評価項目から外されたままアセス審査が終了した。

新研究所特定施設の藤沢市への届出受理が終了するまで、あらゆる施設の情報が非公開にされただけでなく、受理された後も、届出内容を公開するよう申請すると、市は企業の「機密事項」と判断したためか、肝心の所は黒塗り、伏せ字だらけの状態でしか、市民に公開しないのである。

松沢県知事と県環境アセス審査会は、バイオハザードの防止に向けて体制を整え武田薬品新研究所について「先のアセスで欠落していた重要な評価項目を加えた追加のアセスメント」を実施すべきである。

また法整備が不十分な状況で武田薬品は「法令遵守」だけを言うのではなく、先端技術を湘南の地で成功させるのであれば、先行して良好な環境に住む地元住民に十分説明することこそ企業の社会的責任であり追加のアセスメント実施に向けた市民の切実な要望を受け入れるべきでないか。(平倉 誠)

「藤沢未来予想図」の絵に想う

1枚の異様な絵が眼についた。ガイコツが描かれていて、ポスターのようでもあり、最近のコミックのひとこまのようでもある。「藤沢未来予想図」というタイトルで、秀作賞の紙が貼られていた。明るい風景画や優しい花の絵が並ぶ6月の藤沢市絵画展の展示場の中である。

研究所と思われる建物の煙突から煙が出て、その中に幽霊の群のようなものが漂っている。煙突の下看板の会社名には紙が貼られていたが、知っている人なら、いま反対運動が起きている武田薬品の研究所だとわかる。

私は、武田薬品の問題は、エコネットニュースに書かれている程度しか知らないが、会社は、建設には市と事前に協議した安全基準を守っているといっている。研究所からの廃棄物には薬品や実験動物のし尿や死骸が想定されている。そうすると、絵に描かれた煙突は動物の焼却場で、煙の中の変なものは実験動物の亡霊だろう。研究内容には遺伝子組み換え実験という謎めいたものもあり、企業秘密だからと、詳しく説明してもらえないそうだ。会社は、一般人には説明してもどうせ理解できないだろうと考えているようだ。たしかに、わからないのに何でも反対するという人がいる。

一方、建設反対の人はまじめな人が多いから、手厳しい。会社の言うことをまったく信用していない。企業が利益のために有害物を排出し環境を壊したという例はたくさんあるから当然である。会社は、排水は害がないように処理して市の下水処理場を通じて川に流すそうだ。しかし環境問題では、科学者の意見が対立する例はよくあり、残念ながら科学者も信用できない。

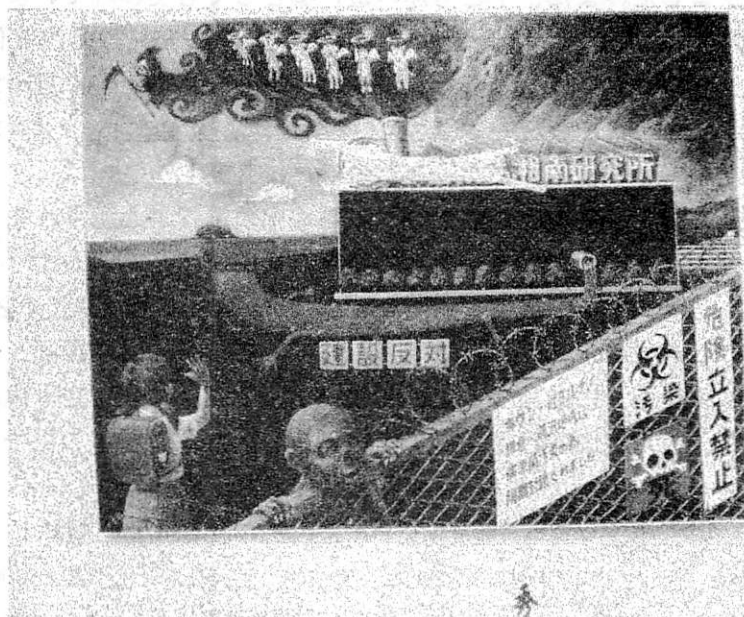
しかも川の下流には海水浴客が訪れる観光地の江の島がある。江の島の観光関係の人には生活にかかわる大問題で、湘南の海が汚染されているらしいなどという風評をたてられたくないから、目立った反対運動もやりにくいだろう。一方、市は、武田薬品のような大きな会社が来てくれれば税収増になると歓迎しているらしい。

反対運動をしている人は裁判に訴えたが、裁判所は、本来、法律の解釈や、手続き・形式に落ちはないかなどのチェックはお手のものだが、安全性のような科学的な判断をするのには向かない。それに先端技術には法律がまだできていないようなものもあるから頼りにならない。建設予定地の近くに住んでいる人の中には、引越そうかなどという人もいっているが、それでは解決ではなく逃避である。

そこに、この絵が現れた。新聞に写真でも載って反対運動が盛り上がりがないかなと思う人もいだろうし、余計なことをしてことを荒立てないで欲しいと思う人もいだろう。会社の名に紙を貼ったのは表現の自由を侵すものなどという新たな紛糾も起きかねない。

現代は、信じることのできるものが少ない時代である。人も科学も法も頼れない。そして、底流には損得や欲望がうごめいている。「藤沢未来予想図」のガイコツは、そんな不気味さをたたえている。

しかし私は、次の世代を信じている。だから次世代のために少しでもよい環境を残したいと思っている。温暖化対策は人間としての義務の一つである。無意味なことをしているのかもしれないが、環境問題に関心のあるボランティアの人はみな同じようなことを考えているのではないだろうか。(若杉忠男)



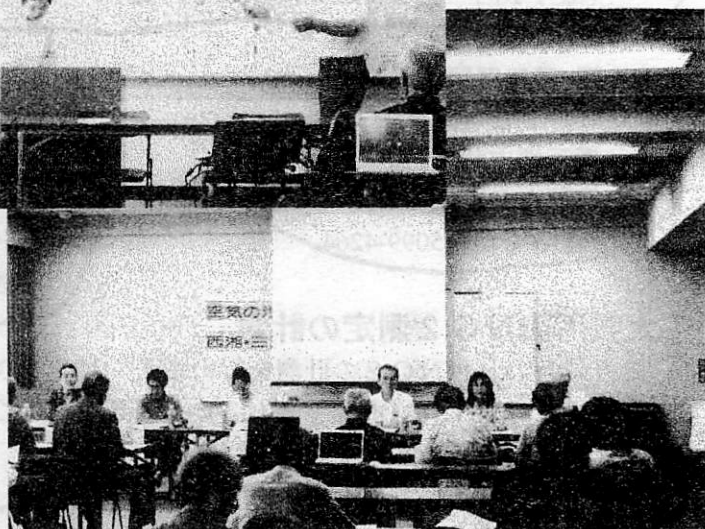
空気の汚れを考える西湘・三浦・湘南地域集会より

6月19日、ふじさわ環境フェア協賛行事として、相模湾岸6都市(二宮、平塚、茅ヶ崎、逗子、横須賀、藤沢)の大気汚染測定運動をしている市民団体が集まり、報告集会とシンポジウム「減らない健康被害」を開催した。藤沢市環境保全課の報告もあり、最近規制が始まった微小粒子状物質(PM_{2.5})の測定機はこれから設置する予定であることや光化学スモッグは減ってきたが昨年も湘南で2回発令された等の話があった。複数の団体から二酸化窒素環境基準値を元の0.02ppmに戻してほしいと要望がでた。



茅ヶ崎の団体からは商店街の街おこしと重ねて環境にやさしい自転車貸し出しを広く行っている報告があった。

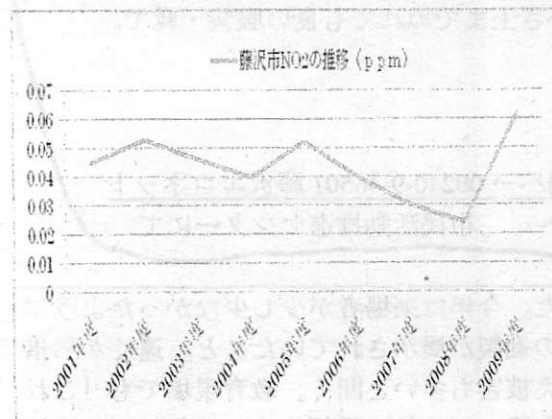
シンポでは、川崎公害病患者と家族の会の方2人も加わり、川崎公害裁判は大気汚染物質と健康被害は因果関係があることを認めたこと、勝利後もぜん



ん息患者への完全救済を求め、環境再生の街づくりを提案し実現している報告があった。遠く山北町からも参加があり、東名高速や246号線からの大気汚染が広がり困っていると訴えた。

下記はシンポで報告した大気汚染とぜん息の推移です。環境基準内であっても、NO₂が0.04ppm以上あると、ぜん息は増加することが分かります。(2006年まで)

0.03ppm以下になって初めてぜん息も減少しました。(2007年、2008年) (青柳)



藤沢市小中学校ぜん息罹患率推移



NO₂ (夏測定) 推移 (藤沢の空気を考える会)

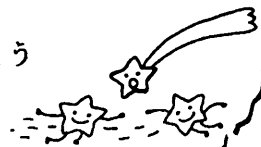
大庭自然探偵団 遠藤観察会

7月11日(日) 10時～14時 慶応大学湘南キャンパス前集合 ～笹窪谷へ
申込み/ 82-9026 高橋 雨天中止

クールアースディ2010 ライトダウンで地球環境を再認識しましょう

7月7日(水) 午後8時から10時 いっせいに消灯しましょう

主催/ 藤沢市環境都市政策課 50-8402

**藤沢探鳥クラブ**

川名通年観察会 7月4日 8:00 藤沢駅南口地下道入り口集合

(毎月1回 第1日曜日に行っています) 申込み/ 25-1817 藤山

第6回 武田問題住民訴訟

8月2日(月) 11時

横浜地方裁判所 502号法廷

傍聴をお願いします

連絡先 080-5099-4264

武田問題市民連絡会

署名の締切は7月20日です

署名は6000筆を超えました

もう一周りにお願いします

連絡会 7/7(水) 18:30～

連絡先 080-5099-4264

大気汚染NO2測定の計測

6月に行われたNO2の計測を行います ご希望の方はご連絡下さい

とき 7月21日(水) 13:30～15:30ごろ

ところ 藤沢橋測定局 会議室にて

連絡先 0466-25-9187 沢野井

**藤沢エコネットから****小網代の森 タベのアカテガニの放仔観察会**

森と川と干潟と海がひとつになった、完結した生態系の場所です

日没直前に放仔(お産)が始まり約1時間で終了。首都圏唯一の生態系が見られる場所です。

7月28日(水) 16時 湘南台駅小田急改札口集合

京浜急行三崎口から徒歩 水の中に入ってひざ上までぬれても良い服装・靴で。

長靴はダメです

参加費 交通費等 各自負担

会員募集→会費3000円 振込口座は→郵便局へ→00240-9-46501 藤沢エコネット

次回事務局会議 7月14日(水) 15:00～ 市民活動推進センターにて

《編集後記》恒例のふじさわ環境フェアは終了した。今年は来場者が少し少なかったように思えた。いちばんに目をひいたのは「ハクビシン」の剥製が展示されていたこと。遠くから借りてきたそうだ。生態系を混乱させる外来種が増え被害も多いと聞く。教育現場でも「これがハクビシン!」と実物大があると生徒の関心度も違ってくる。教師の中には教材として使いたいと思っている人もいると思う。教育予算の減少がここにも現れているのか。(H)